

第一〇六回楽々俳句会(ちば)

令和六年四月十一日(木) 晴

会場 千葉公園 活動センター 投句三句 五句選

武久 2 一寸のすみれ揺らして風過ぐる

久 1 4 尖がる樹を緑と化して山笑ふ

久 3 春落葉道の湿りになじめつつ

武久 1 5 吟行を楽しむ余生花の下

久 1 2 小流れのか弱き音や木の芽晴

武 1 1 散る花や訪人なき忠霊塔

久 1 向こう岸手を振る人のかぎろひし

久 3 夫と来てやがて無言の花の下

久 3 桜東風コーヒー香る喫茶店

久 1 客待ちの小舟ゆらゆら水温む

武 1 1 風に舞う羽衣か雪柳

武 1 花筏鯉にのまれて乱れ散る

久 1 世の中を渡る術知る残花かな

2 1 風光る一年生のランドセル

1 1 東風吹くや句誌を再読友偲ぶ

1 1 チューリップ赤はなくてはならぬ色

1 振り向けば池面に揺らぐ木の芽かな

1 蒼天やテロップの如モノレール

1 沈む鯉見えてさざ波春深し

6 春の水すくえば手の平透けるごと

2 対岸の菜の花一里渡し舟

2 チューリップ隣に負けしと開きけり

2 藤咲くや池のおもてに影うつす

1 花衣母のかたみの匂い袋

洋子

恵美子

ミチ子

宣子

武彦

成子

粹歩

洋子

静代

粹歩

信雄

利太郎

武彦

弘子

育子

洋子

武彦

恵美子

育子

今日子

宣子

今日子

弘子

弘子

1 亡友ねむる北国の地に田鶴帰る

1 花筏時をり亀の頭出る

1 相棒の杖をたよりに花見行く

1 木道の下ゆるやかに春の水

1 御浸しに言わんばかりのつくしんぼう

1 イーゼルのメニユー満載花日和

湖心より別れ二匹の春の蝶

枝垂桜句友むかしを語りつつ

花を見てあの時の事思いきり

小谷行甲府盆地の花杏子

あずさ号甲府盆地の花杏子

春始動大樹も草も鯉たちも

筏ともならず池の花びら

花びらの筏にならず池の淵

手の平にピンクほっこり乙女椿

乙女椿ピンクほっこり手の平に

葉柳やボートはいかがと手招きす

葉柳のボートはいかがと揺れにけり

長風船ねじる腕前道の芸

長風船ねじる大道芸の術

亀は浮き鯉も浮きつつ春の池

春の池頭出す亀鯉は浮く

底下幸せ乗せて朝燕

底下幸せ運ぶ朝燕

初蝶や二人ゆつくり池の淵

初蝶や二人の前に後ろにと

参加者 成子・洋子・育子・ミチ子・弘子・宣子・静代・今日子・恵美子

利太郎・粹歩・信雄・武彦・久登

欠席 園子・豊隆

次回予定 五月九日(木) JR千葉みなと駅 九時集合 ポートタワー近辺散策

休憩室で句会

六月十三日(木)

七月十一日(木)